

Challenge3

軽トラとチェーンソー
ふるさとを愛する気持ちがあれば
山も人も元気になれる仕組み



「木の駅かわね」実行委員会
副委員長

鈴木國之



出荷量に応じて地域通貨
「ダラ券」が発行されます



今日はヒノキを間伐



チェーンソーで2材に



2材単位に検尺



枝払いして積載しやすく



軽トラに積み込み



直径を検尺



検尺結果を出荷伝票に記入

木の駅の仕組み

出荷者

- ◎出荷者登録
- ①間伐材や林地残材の搬出
- ↓
- ②木の駅に出荷
- ↓
- ③出荷伝票に直径・長さ・本数などを記入
- ↓
- ④出荷伝票を木の駅ポストに預ける
- ↗
- ⑦「ダラ券」を受理して使用
- ↖

事務局

- ◎出荷者・商店登録受付
- ⑤出荷伝票の受理
- ↓
- ⑥地域通貨「ダラ券」の発券

- ⑨商店から使用済「ダラ券」を受理、精算

商店

- ◎商店登録
- ⑧「ダラ券」でサービスの提供
- ↑
- ⑩精算金の受理



伝票を木の駅設置ポストに



登録者ごとの場所へ



木の駅に出荷

木の駅のルール

- ①対象森林…川根本町内に限定
- ②出荷者…町内在住者、町内在勤者、町内山林所有者、個人で町内の森づくり希望者
- ③出荷材…末口5号以上、長さ2材のスギ・ヒノキ
(資材としての寄附材も「志〜材」として扱います。)
- ④集荷場…桑野山貯木場、下泉土場
- ⑤支払い単価…1材当たり6千円(軽トラ3車で約1材)
- ⑥集荷期間…平成28年1月31日まで(初年度目標100材に達したら、早期終了する場合があります。)
- ⑦登録料…1名当たり3千円

※その他、詳しいことは事務局(役場産業課または産業建設室)までお問い合わせください。

来年度以降も多くの皆さんに参加して
いただきたいので、追加募集していきます。
ぜひ、ご参加ください!



オープニングセレモニーで登録者と応援・協力者が団結、決意新たにスタートを切りました

Challenge
to the future

山も人も元気に！ 木の駅かわねの 新たな挑戦が始まります

「森林整備事業は特定の人のために推進するものではない。地域として推進するものである。県・町・町森林組合にお任せでは事業の推進はできない。ご指導を受けなければ推進できないことは当然として、要は地域のみんなが本事業に対して『やる気』を出すこと、『積極的』になること、『地域を思うこと』である」。愛知県東栄町「森林整備事業古戸推進会」の佐々木経人さんは、平成21年12月発行の林業あいち657号で、このように記しています。

「木の駅かわね」を発足させるに当たり、10月15日、鈴木町長をはじめ町議会議員全員と関係者らが東栄町を訪問しました。東栄町では村上東栄町長、原田町議会議長、尾林町森林組合長、村本町商工会会長、森下とうえい木の駅実行委員会委員長ら12人が視察研修に應對、東栄町の木の駅に対する本気度を感じたと鈴木町長は話します。

間伐したまま山に放置されている林地残材を地域通貨と交換し地域経済の活性化を目指す「木の駅かわね」。平成27年度は社会実験として課題の検討・改善期間として取り組みますが、まちの課題に対して協働で解決しようとする新たな挑戦が始まりました。

間伐材と地域通貨で「山も人も元気に」。まちのため、森林のため、未来のために…。山で眠っていた宝の「財」木は木の駅から、未来へ向け出発します。



▲軽トラに積載された材木



▲チェーンソーの扱いも学ぶ



▲地域通貨「ダラ券」の披露



▲登録者が一致団結